HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学総合博物館ニュース
Author(s)	江田, 真毅; 成田, 佳子
Citation	北海道大学総合博物館ニュース, 28
Issue Date	2013-12-20
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/53752
Type	book
File Information	MuzeumNews_28.pdf

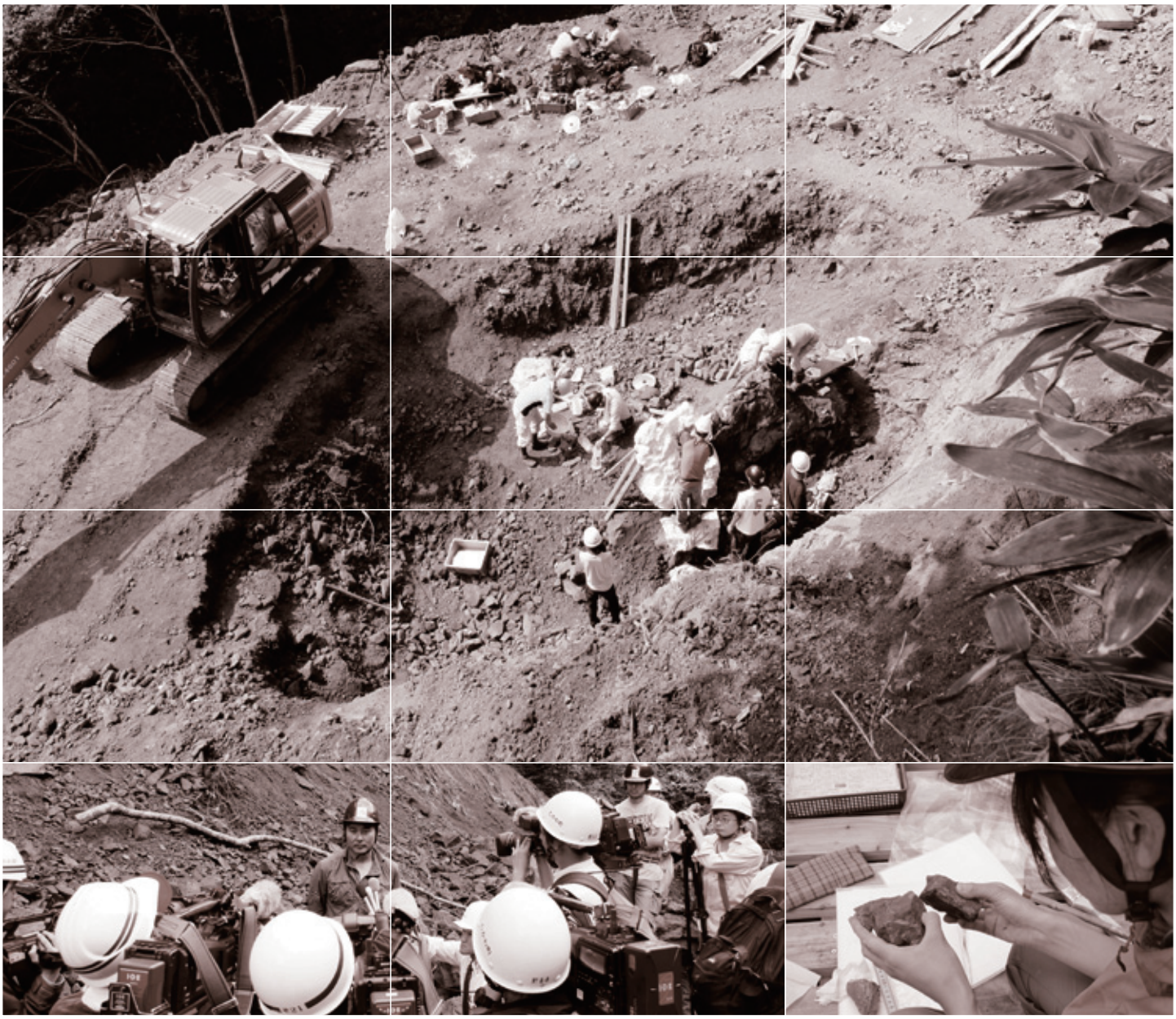
Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

ISSN 1345-059X
北海道大学 総合博物館

THE HOKKAIDO UNIVERSITY MuseumNews

北海道大学総合博物館ニュース

ISSUE 28
December 2013
2013年12月発行



CONTENTS

01 冬季企画展示
「ツイン・タイム・トラベル
— イザベラ・バードの旅の世界 —」

02 企画展示 「フカシギの数え方」

04 特別企画展示
「タイからワニがやってきた！」展

06 穂別での恐竜発掘

07 博物館映像学の研究者、「おしょろ丸」で北極海へ

10 ミュージアムマイスターの認定

THE HOKKAIDO UNIVERSITY MUSEUM
北海道大学総合博物館

冬期企画展示

「ツイン・タイム・トラベル ― イザベラ・バードの旅の世界 ―」

●2013年1月25日～ 5月11日

レーのオアシスと
岩山にはためく祈祷旗
（ラダック　インド）

イザベラ・バード(1831 ～ 1904)の名前は、北海道ではよく知られています。アイヌの世界を訪れ、詳細な記述を残し、それが翻訳されてきているからです。彼女の明治11年(1878)の旅は、実は北海道だけへの旅ではなく、関西・伊勢方面への旅でもあったのですが、北海道の旅が特に注目されてきたのも事実です。この日本の旅は、後年、母国英国において最高の女性旅行家として評価されるきっかけになった旅として注目されます。彼女の旅の世界がアジアに展開する最初の旅でした。身長約150センチと小柄で、病とも終生無縁でなかったこの女性は、22歳から70歳まで、南アメリカを除く5つの大陸のすべてを旅したのです！（南極は当時未探険で、大陸の存在は確認されていませんでした。）

日本にやってきたのは46歳の時。そして50歳で結婚し、5年後の夫の病没による悲しみを乗り越える中で、いよいよその旅は激しさを増していきました。後3年以上に及んだ極東の旅(1894 ～ 97)の折にも日本を訪れますが、母国に替わるいわばベースキャンプとしての滞在でした。

本企画展示は、地理学者金坂清則が、イザベラ・バード論の立場から彼女の旅と旅行記を科学するために、20年以上にわたって彼女の旅の世界を旅し、その折に撮影した写真を、バードの旅の展開に従って展示するものです。すべての写真は、キャプションにあるバードの文章と対になっています。彼女が用いた銅版画や撮影した写真とも対比できるようになっているものも多数あります。撮影地点を彼女の旅のルートと共に示す地図も掲げます。ですから、彼女の文章と読み比べながら順を追って見ていくことによって、彼女の旅の世界を自分も旅したような感覚にひたることができます。「過去の旅行記に描かれた旅の時空と、今に生きる私たちの旅の時空を、主体的に重ね合わせる旅」という意味のツイン・タイム・トラベルというコンセプトのユニークさが評価され、2004年から2013年まで、バードとその旅にゆかりのある世界14の博物館やアートセンター、図書館で約2年にわたって開催されてきました。本展はその15回目です。

この最後の写真展が、彼女にとって最も重要な旅の世界の1つだった北海道、しかも「マサチューセッツ農科大学を手本として設立された農学校」とバードが記す(『完訳 日本奥地紀行3』)札幌農学校を前身とする北海道大学で開催されますことはまことに意義深いことです。

かつて旅行記は、部屋の中で読むことが基本でした。ですが今は、旅行記を携えてそこに描かれた旅の世界を味わうという楽しみ方もできます。本展が契機になってそのような旅の面白さを実感し、実際に旅してアルバムを作ったり、写真展が開かれるならばうれしい限りです。「旅行記を読むとは、その基になった旅を読み、旅する人を読み、旅した場所・地域を読み、旅した時代を読むことである」（金坂清則）という、私が最も重視する言葉を頭の片隅において観覧いただければ幸いです。

金坂清則
（京都大学名誉教授／人文地理学）

梭磨城 背面（梭磨　阿壩族・羌族自治州　四川　中国）

梭磨城の名残り（同左）

企画展示

「フカシギの数え方」

2013年7月9日（火）より2014年4月6日（日）までの約9ヵ月間の予定で、総合博物館2階企画展示室において、企画展示「フカシギの数え方」を開催しています。これは、北大情報科学研究科において実施しているJST ERATO湊離散構造処理系プロジェクトの成果展示の一環として、日本科学未来館と共同で制作したもので、組合せ爆発のすごさとアルゴリズム技術の重要性を小中高生や一般市民に分かりやすく伝えることを目的としています。この企画展は、昨年度、東京・お台場の日本科学未来館で約8ヵ月間にわたり開催され、会期中に約23万人の来場者を数えた他、展示物の1つとして作成したアニメーション動画がYouTubeで140万ビューを突破するなど、サイエンス系コンテンツでは異例の大ヒット作となりました。今年度は、未来館から北大に会場を移して、引き続き同タイトルでの展示を行っています。

本展示の最大の特徴は、アルゴリズム（計算手順）という、形のないものに挑戦することの意義と面白さを表現しているところにあります。一般に自然科学系の展示では、ロケットエンジンや脳の断面図のように実物や模型を見せれば一目で分かりやすいのですが、情報科学、特にアルゴリズムのような抽象的なものを説明する展示はこれまであまり例がなく、展示手法から新しく開発する必要がありました。未来館の若手スタッフや、新鋭のメディアアート系クリエータの人たちとのコラボにより、今回の展示物が出来上がっています。会期中にぜひ一度ご来場いただき、一風、斬新な展示をお楽しみいただければと思います。

湊　真一
（大学院情報科学研究科教授）

「藻類が人類の未来を救う」in Thailand

タイ王国国立科学博物館（NSM）が主催する「タイ科学技術博覧会（Thailand National Science and Technology Fair 2013）」が、2013年8月6日（火）～ 21日（水）の間、バンコク市内のBangkok International Trade and Exhibition Centre（BITEC）で開催されました。毎年100万人以上が来場するタイ国内最大規模のイベントであり、タイ王室、NSMや日本、米国、中国など各国の関係機関が参加し、科学技術の紹介や展示などを行っています。

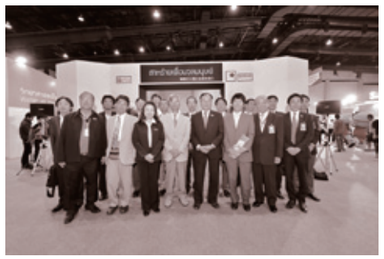
総合博物館では、この博覧会に開館以来初となる海外特別展示「藻類が人類の未来を救う」を出展しました。この展示は2012年7月10日から9月23日に開催された企画展示を基に新しく作り直したもので、日本語・タイ語・英語の3カ国語にて解説パネルを作成しました。川嶋昭二博士による海藻の精密画や当館に保管されている海藻標本（SAP）などに加え、巨大水槽に5mほどのマコンブやガゴメコンブ標本などが新たに展示されました。

8月6日の博覧会のオープニングセレモニーには、タイ王国科学技術省や各国の大使館などから多くの関係者が、当館からは津曲敏郎館長、阿部剛史講師と河合俊郎助教の3名が参加しました。博覧会のオープニングセレモニーに引き続き、「藻類が人類の未来を救う」のオープニングセレモニーも執り行われました。セレモニーでは、津曲館長、タイ王国科学技術省のPreerapan Palusuk大臣と在タイ王国大使館の齊藤貢公使によるテープカットが行われました。その後の記念品の交換では、NSMのKannikar Wongthongsiri副館長から津曲館長、阿部講師と河合助教へ博覧会記念ポロシャツが贈られました。また、津曲館長からWongthongsiri副館長と齊藤公使へ総合博物館の図録等が贈られました。セレモニーの後、阿部講師がWongthongsiri副館長ほか関係者に展示を解説しました。チョコパイや缶コーヒーに海藻由来の成分が含まれているなどの説明に、皆さん興味深く耳を傾けていました。また、8月7日には阿部講師による特別講演も開催されました。

博覧会での特別展示は当館とNSMの多くの方々のご尽力により、大成功に終わりました。末筆ながら皆様に御礼申し上げます。

河合俊郎
（研究助教／魚類系統分類学）

展示解説の様子



オープニングセレモニー後の集合写真

企画展示

「巨大ワニと恐竜の世界 ― 巨大爬虫類２億3千万年の攻防 ―」

10月8日に行われた入場者5万人セレモニー

2013年10月27日、夏季企画展示「巨大ワニと恐竜の世界」が閉幕しました。大阪大学総合学術博物館と共同制作した巡回展で、87日間の会期中61,082人に観覧していただき大成功を収めました。これまでの企画展での最高入場者数はアラスカ恐竜展（2010年）の50,169人でしたが、それを大幅に上回る記録となりました。

恐竜時代に生きていた巨大ワニを中心に、それぞれの時代の恐竜を配したことで、迫力ある展示となりました。これも、多くの標本を借用させていただいた全国の各機関（国立科学博物館、群馬県立自然史博物館、群馬県神流町恐竜センター、茨城県自然博物館、神奈川県立生命の星・地球博物館、有限会社ゴビサポートジャパン）の協力によって可能となったものです。

また、ボランティア、ミュージアムマイスターコースの学生、北海学園大学ボランティア実習生の方々には87日間という長い期間、会場での展示解説を担当していただき、入場者から高く評価されたと聞いております。皆様に感謝いたします。

小林快次
（研究部准教授／古生物学）

「白夜の北極・グリーンランド」展

展示風景

総合博物館では、11月1日から24日の期間、1階「知の交流コーナー」において「白夜の北極・グリーンランド展」を開催しました。

世界最大の島・グリーンランドで、いま何が起きているのか。止まらない氷の融解と海への流出、縮小を続ける氷河氷床、変わり続ける島とともに生きる人々の暮らしから見えてくるものとは。これらの視点から、北大低温科学研究所と国立極地研究所による氷河氷床研究の最前線を、HTB（北海道テレビ放送）の取材陣がグリーンランドでの長期同行取材を敢行し、その全貌を総合博物館の舞台で一挙公開しました。

氷河氷床研究紹介コーナーでは、低温科学研究所の杉山慎講師らによる現地観測調査器材等の展示のほか、急激に迫る地球温暖化による北極の変動の研究成果をつぶさに紹介しました。一方、白夜の北極写真展コーナーでは、HTB 取材班コーディネーターとしてグリーンランド取材に同行した、写真家阿部幹雄氏の撮影による神秘的な氷河氷床の姿や、島の人々の暮らしなどに迫る貴重な写真を多数展示しました。また、グリーンランド島の氷床基盤には、約38億年以上前の地球創世期の岩石や豊富な地下資源が分布し、地球最古の有機炭素を含む貴重な岩石も見出されていることから、それらの標本類も展示されました。さらに、日本人研究者として初めてグリーランドへ足を踏み入れ、グリーンランド氷冠の雪と氷の粘弾性的研究を行った中谷宇吉郎（元北大理学部教授）に関わる研究も紹介されました。

会場では、11月4日に放送されたHTB 開局45周年記念特別番組「氷の島のメッセージ」が上映され、良質なネイチャーリングの世界を醸し出していました。

なお、この特別展示は北大サスティナビリティーウイーク2013のイベントに指定され、特別展示の資料情報は北大の貴重なアーカイブとしても利活用されることになっています。期間中には３回の関連市民セミナーが開催され、グリーンランド展に彩りを添えることとなりましたが、展示公開開始直後の3日間の入館者数は、1日平均で約2,200人を数える盛況ぶりでした。

◎市民セミナー

11月 3日　杉山 慎（北大低温研 講師）
11月10日　金子 陽（HTB記者）
11月24日　阿部幹雄（写真家）

松枝大治
（資料部研究員／鉱床学・鉱物学）

「タイからワニがやってきた！」展

上／展示の様子
下／オープニングセレモニーのテープカット。左から津曲館長、Chanapaitoon 副館長、Chan-ard 研究部長、高橋副館長。

2013年11月26日（火）から12月27日（金）まで1階「知の統合コーナー」で、特別企画展示「タイからワニがやってきた！」を開催中です。同展は、2012年に部局間協定を結んだタイ国立科学博物館（NSM）と当館が主催するコラボレーション企画です。タイにおけるワニ類の過去と現在を学び、その未来を考えるこの展示は、以下の5つのコーナーから構成されています。

◎恐竜時代のタイにおけるワニ
恐竜時代から現在とほとんど同じ形態で生き続けてきたことから生きた化石とも呼ばれるワニ類。タイから見つかった化石のレプリカから、その高い多様性などについて紹介します。

◎タイに現存するワニ類
タイに生息する3種のワニ類、シャムワニ、イリエワニ、マレーガビアルについて紹介します。生息地の減少と密漁によって、これらの種の野生個体群は絶滅の危機に瀕しています。

◎タイ文化の中のワニ
考古学資料や語り継がれる伝説・風習、有名な人喰いワニの記録や目撃例を通じて、先史時代以来のタイの人々とワニ類とのかかわりに関する物語を紹介します。

◎タイ産ワニの商用利用
皮革を素材とした製品や医薬品を作るために、あるいは見世物として人と戦わせるために、ワニ類はタイで養殖されています。現代のタイにおけるワニの商用利用について紹介します。

◎ワニの3D クラフト
視覚の錯覚を体験できる自分だけのワニの3D クラフトを作成できます。

初日のオープニング・セレモニーには、NSM からSakorn Chanapaitoon 副館長、Tanya Chan-ard 研究部長、Veera Vilasri 研究員、Cholawit Thongcharoenchaikit 研究員の4名が来札されました。午後の公開シンポジウムでは、Chanapaitoon 副館長、Chan-ard 研究部長、Thongcharoenchaikit 研究員、飯島正也さん（理学院博士課程）にご講演をいただきました。講演者の方々には、会場からの質問に熱心にお答えいただきました。両館のさらなる研究協力につながる、有意義な情報交換の場となりました。

阿部剛史
（研究部講師／海藻系統分類学）

江田真毅
（研究部講師／考古学）

「タイからワニがやってきた！」展のポスター

マサチューセツ大学での クラーク博士展示

展示の様子

本年2013年は、マサチューセツ大学創立150年の年にあたります。マサチューセツ農学校Massachusetts Agricultural College（MAC）が設立されたのは1863年で、意外なことにW. S. クラーク博士の尽力で札幌農学校が設立された1876年のたった13年前です。

さて当館では2012年3月3日～5月6日の期間、企画展示「クラーク博士と札幌の植物」を開催しましたが、この展示に触発?されたのか、本家のマサチューセツ大学でも創立150周年にあわせ、クラーク博士関連の展示「William Smith Clark as Collector: A Legacy at Two Agricultural Colleges」が、当館展示協力のもと10月18日から11月30日まで公開されました。場所はマサチューセツ大学アマースト校の総合科学棟Integrated Science Buildingの玄関吹き抜け空間で、学生たちも行きかう場所に5つの展示ケースが設置され、壁にスライド映写と当館展示でも使われた明治六年『札幌市街之真景』（植物園博物館所蔵）の複製大型タペストリーが掲げられていました。

高橋英樹
（研究部教授／植物体系学）

グローバルCOE展示、4年間の活動を終えて

2009年から開始したグローバルCOEプログラム「境界研究の拠点形成：スラブ・ユーラシア」では、北海道大学総合博物館2階に設置されたGCOE展示ブースで境界研究に関する企画展示を行ってきました。このプログラムは、「境界」に関する研究・教育活動を推進することはもちろんですが、その成果を広く社会に還元することも目的としており、博物館展示を通じて、皆様に多くの境界問題について伝えたいと思い、企画したものです。

境界に関する問題は多様ですので、プログラムは、スラブ研究センターを中心に北海道大学のすべての人文社会学系研究科、センターの教員で運営されてきました。

博物館で実施した成果展示も、この多様な研究内容を反映して、凡そ半年に一度、変更してきました。これまでに行った9回の展示では、ロシア、旧ソ連を中心としたユーラシア地域、日本の南北周辺地域、中国、北欧、北米の歴史、言語、文学、民族学、政治の過去・現在、と幅の広い領域を対象としたものとなりました。現在はプログラムの活動記録を振り返る第10回目の展示（～ 12月27日まで）を行っております。

また展示会期中には、より内容への理解を深めてもらう目的で、ひと月に1回を目安に、展示内容に精通した研究者や識者をお招きして関連市民セミナーを実施しました。これまで計53回のセミナーで延べ約3,600人と、多くの方々に参加いただきました。

境界に関する問題は、私達の身近にあります。ですが、実際には、国境地域に住む人々、歴史過程で分断を余儀なくされた家族・集団、国の中での「マイノリティ」（先住民、無国籍者、在留外国人…）など、政治的・経済的・心理的問題の渦中にある当事者でなければ、なかなか実感できない問題ではないでしょうか。博物館展示は、本やテレビ、インターネットなどのメディアを通じて得る情報とは異なり、実際の資料を見ながら、聞く、（場合によっては）触れる、嗅ぐ、感じる、といった実感をもって対象への理解を深めることを大きな特徴としています。今回の企画から、身近でありながらも遠い「境界問題」を体感する機会を持ってもらえていれば嬉しい限りです。

「境界研究の歩み」展の様子
これまでの展示概要を紹介中

「図説ユーラシアと日本の国境 ボーダーミュージアム」
（北海道大学出版会12月刊行 定価1,800円）
展示企画の先生方による
展示内容に関するエッセイ集が出版されます。

今回の博物館展示企画には、多くの方々のご助力をいただきました。2009年からの4年間でご協力いただいた方は膨大で、皆様のご芳名を書き記すことはできませんが、お忙しい中、展示を企画して下さった先生方、資料借用をご快諾いただいた皆様、機関、ご講演の先生方、また博物館スタッフの方々に、心よりお礼申し上げます。

木山克彦・宇佐見祥子
（GCOE展示担当者／スラブ研究センター）

穂別での恐竜発掘

2003年4月9日、むかわ町穂別地区（旧・穂別町）で、同町在住の堀田良幸氏によって恐竜の尾骨が発見されました。この化石は、上部白亜系函淵層の海成層（約7,200万年前の外側陸棚堆積物、水深およそ80～200メートルの範囲内）のノジュール内に、少なくとも13個の尾椎骨が繋がって保存されていました（図1）。それらには横突起が無く、尻尾の中間から後ろの尾椎骨でした。また、その長さから、恐竜の全長は7～8メートルと推定されます。

保存された椎体は、断面の形が六角形であり、前後の関節面は平らな形状です。これらの特徴から、ハドロサウルス科（鳥盤類）のものと同定しました（図2）。ハドロサウルス科とは、植物食恐竜で白亜紀後期に繁栄した恐竜として有名です。2011年に採集地の露頭の現地調査をしたところ、胴体側（体の前方）の脊椎骨ひとつが埋没しているのを確認しました。その結果、骨格の残りが露頭に向かって垂直方向に埋没している可能性があることがわかりました。そこで、当館とむかわ町立穂別博物館とが協力し、本年9月から本格的な調査・発掘を行いました。

全身骨格が埋まっていることを予想していたため、あらかじめ、ハンマーやタガネはもちろんのこと、発電機と削岩機、デンタルピックやブラシなど、モンゴルや北米で発掘する際と同様に道具を揃え、大きな化石を取り出すのに必要な、石膏、麻布、木材なども多めに準備したつもりでしたが、化石の入っている地層がほぼ垂直に立っており、さらに各部分がカチカチのノジュールとその周りの柔らかい地層に混在し大きく密集しているため、調査は困難を極めました。骨を少しずつ露出していくと、多数の尾椎骨が発見されましたが、最初に発見された繋がった状態のものとは違い、少しバラバラの状態でした。さらに掘っていくと後ろ足の骨がたくさん出てきた事から、全身骨格が埋まっていることが確定しました。また、遊離した歯も多数発見されていることから、頭骨も間違いなく埋まっていると考えています。

今年度の発掘は尻尾と後ろ足の骨が中心でしたが、今後の発掘によって残りの骨格も発見されると予想されます。兵庫県淡路島に露出している約7,200万年前の地層からもハドロサウルス科の恐竜化石が見つかっていますが、骨は関節していない断片的なものです。今回の骨格標本はほぼ骨格が関節しており、世界からも注目される非常に貴重な恐竜化石標本であることは間違いありません。

小林快次
（研究部准教授／古生物学）

図1　最初に発見された恐竜の尾椎骨化石

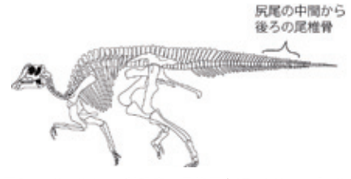


図2　ハドロサウルス科恐竜の骨格図（イラストはニッポノサウルス）。尻尾の中間から後ろの尾椎骨の部分を記す。

博物館映像学の研究者、「おしょろ丸」で北極海へ

おしょろ丸Ⅳ世
北極海からアラスカダッチハーバーへ向けて航行するおしょろ丸Ⅳ世（1396トン）。

北海道大学が船を所有している、ということをどれだけの人が知っているのでしょうか。北大は2隻の水産学部附属練習船「おしょろ丸」「うしお丸」を所有していますが、おしょろ丸Ⅳ世は今年度で廃船となり、来年度からは現在岡山県玉野市で建造中のおしょろ丸Ⅴ世が研究者や学生を乗せて世界の海を駆け巡ります。おしょろ丸という船に研究者や学生が乗り込み洋上実習や調査研究を行っていることに、実学を重視する北海道大学の教育研究に関わる基本理念がよく示されていると言えるでしょう。また、おしょろ丸は共同利用となっており北大の研究者や学生だけでなく、学外の研究者や学生も利用できます。実際、都内の大学や東北地方の水産高校での研究や洋上実習、漁業実習に使用されています。

総合博物館では、おしょろ丸の世代交代に合わせ、平成26年度夏の企画展示として函館キャンパスにある水産科学館と札幌キャンパスの総合博物館で、企画展示「学船　洋上のキャンパスおしょろ丸」を開催します。博物館映像学を研究し、この展示を主担当する筆者は、船上での研究など活動全般を取材するため、ハイビジョンカメラを携えておしょろ丸Ⅳ世最後の外洋航海となる60日航海に乗船し、アラスカのダッチハーバーから北極海を目指しました。北に進むにつれて太陽が一日中沈まない白夜の海域に入り、海氷が見えたり、鯨やアザラシなど野生動物にも出会うことができ、自然のダイナミックな動きを肌で感じることができました。

船では、約70名の研究者、学生、船員と限られた空間で生活を共にしました。航海中の船は24時間活動を続け、休む間はありません。乗船者全員が0時と12時の2交代でそれぞれの役割を担当します。このため、食事は朝昼晩の3食に加えて、夜食が提供されます。貴重な水を節約するため、陸地から離れた沖合では海水をくみ上げて風呂用の水に使用します。風呂には温水、清水、海水と水栓が3本あり、海水の風呂は塩水風呂と呼ばれて乗船者には人気です。塩水特有の刺激がありますが、数日するとそれに慣れ、体がとても暖まる効果を体感でき、筆者自身も海水風呂から清水風呂に切り替わった日には物足りなさを感じました。また、研究海域に入ると研究者や学生が実験器具を用意し、調査研究を行います。海表面から海底までの水深、水温や電気伝導度を継続的に計測するCTDや、網を使ってプランクトンを採取するプランクトンネット、海底の様子を映像でリアルタイムに送り記録するROV（Remotely Operated Vehicle）など、さまざまな実験器具を使用した15種類以上の調査が行われていました。この調査により、地球規模で進む温暖化のメカニズムを解明する基礎データが収集されました。

企画展示「学船　洋上のキャンパスおしょろ丸」では、おしょろ丸での調査研究や歴史、Ⅴ世の建造工程だけでなく、これら船上での生活もご紹介します。

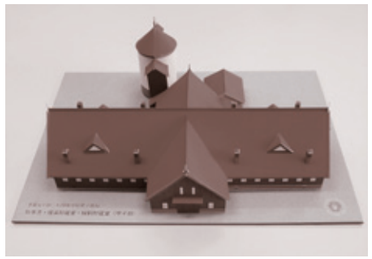
藤田良治
（研究部助教／博物館映像学）

ROVでの調査風景

北極海の海氷を望む

重要文化財「札幌農学校第2農場」ペーパークラフト発売

北海道大学オリジナルグッズとして、国指定重要文化財である札幌農学校第2農場の牝牛舎・サイロ・根菜貯蔵室を模したペーパークラフト（縮尺1/150）が2013年8月30日に発売となりました。総合博物館ミュージアムショップでお買い求めいただけます。



ペーパークラフト　牝牛舎・サイロ・根菜貯蔵室（縮尺1/150）

この建物は、1909年から1912年にかけて、現在の北10条西6丁目付近にあった第2農場施設を現在地に移転する際に最初に建てられた搾乳牛舎です。南半分は煉瓦（れんが）の床と基礎、鉄製の柵でできており、当時、欧米で導入されていた最新式のシステムが取り入れられましたが、北半分は従来と同様の土間床に木製の柵でできています。煉瓦の床は寒冷地に向かないという評価があり、両者を比較するために敢えて別の構造を採用したのでしょう。その違いは外観の基礎部分にも現れています。2階は乾草貯蔵庫で、背後には煉瓦造の根菜貯蔵室と石造のサイロがつながります。サイロは1912年に建設されたもので、日本国内に現存する石造サイロとしては最古のものになります。

発売されたペーパークラフトは2010年度北海道大学博物館実習による成果物です。企画・制作にあたって、3名の実習生が奮闘してくれました。細部の再現へのこだわりと、作りやすさとのジレンマの狭間で、容易ならざる取捨選択を強いられました。組立部品はA4判4枚からなります。組立説明書に従って制作すると、6～8時間程度で完成します。

池上重康
（資料部研究員／工学研究院助教）

大学院生企画

「まっクラ～ク博物館　暗闇で標本を見よう」を開催

夏休み中の7月29日、大学院生発案の企画を実施しました。大学院共通授業科目・理学院専門科目「博物館コミュニケーション特論Ⅰ―学生発案型プロジェクトの企画・実施・評価」（担当：湯浅万紀子准教授、藤田良治助教）の授業の一環として行われ、我々6名の大学院生は「夏休みに多く来館する小学生を対象にした企画を実施する」、「来館経験の少ない北大1年生の博物館利用を促進する」との目的で、照明を落とした館内で標本を観察するというイベントを企画しました。

日中は「まっクラ～ク博物館　小学生編」と題し、小学5・6年生を対象にしたイベントを2回実施しました。参加者は大学院生から標本についての解説を受けた後、昆虫や鉱物、化石の標本を、照明のある部屋で見たときと真っ暗な部屋でペンライトを使って見たときの違いに注目して観察し、それぞれ気付いたことを発表しました。ペンライトで照らされる標本に夢中な参加者の様子が見られ、アンケートには「明るい中では気付かなかった標本の特徴にペンライトを使うことで気付いた」という意見もありました。終了後の保護者からのメールでは、帰宅直後に「昆虫博士になる！」と話した小学生もいたそうです。解説については資料部研究員の松枝大治氏と稲荷尚記氏、理学院の田中公教さんからアドバイスを受けました。広報活動では、イベント前も含めテレビ局3社と地方紙2件の取材を受け、総合博物館の周知活動にもつながりました。また、後日、参加者の写真や観察した標本の解説を掲載した冊子を作成し、参加者に送ったところ、こちらもメールにて喜びの声を頂けました。

夜には「まっクラ～ク博物館　大学生編」と題した北大1年生向けのイベントを実施しました。参加者が暗い博物館をペンライト片手に探索し、途中にいる大学院生から展示の解説を受けながら博物館を一周するというイベントです。参加者に行ったアンケートには、初めて来館したがとても面白かったので昼にも来館したいという意見や、昼の博物館の展示とは異なり新鮮だったという意見がありました。

企画当初の目的は達成することができ、我々はイベントの企画・運営・評価を行うという一連の体験ができました。

担当学生：中村翠珠（環境科学院）、佐藤明日花、田中優作、本間伸一郎、吉田大輝、和田さやか（理学院）

授業の報告記事
http://www.museum.hokudai.ac.jp/highereducation/storytopic/45/

本間伸一郎
（理学院自然科学専攻　修士1年）

暗い展示室で昆虫標本を観察

日本理科教育学会大会特別シンポジウム

「理科教育からみた博物館利用の問題点を考える」を開催

全体討論の様子
（写真提供：日本理科教育学会第63回全国大会実行委員会）

古生物分野の展示解説（同上）

8月10日に日本理科教育学会第63回全国大会が北海道大学で開催され、実行委員会企画特別シンポジウム「理科教育からみた博物館利用の問題点を考える」が当館で開催されました。鈴木誠大会実行委員会委員長（本学高等教育推進機構）の発案によるこのシンポジウムでは、国立科学博物館の小川義和氏がオーガナイザを務め、栃内新教授（本学）と中山迅教授（宮崎大学）、森山正樹教諭（札幌市立白石中学校）、山本順司准教授・湯浅万紀子准教授（当館）の5名のパネリストが講演し、参加者と全体討論を行いました。山本准教授と湯浅准教授の講演では、当館の博物館教育の現状と課題、展望を示し、学生をコミュニケータとして学術標本の研究を伝える取り組みや、持続可能な開発のための教育に関連する国民のリテラシーを高めるひとつの方策として初等および中等教育における地学実習を支援するための「地球を体感できる教材開発」について紹介しました。

全体討論では、実物資料、学芸員や研究者、博物館という空間など博物館の資源を学校教育に活かすために必要な人材、連携の具体的な方策について活発に意見交換がなされました。その後、次の分野で当館の展示を案内し、学校と博物館の連携について議論を重ねました。

岩石・鉱物：山本順司
古生物：越前谷宏紀（当館・資料部研究員）
植物：高橋英樹（同・教授）
昆虫：大原昌宏（同・教授）
ノーベル賞記念展示：阿部剛史（同・講師）
企画展連動講座 恐竜と宇宙の4Dシアター：
田中公教・三嶋渉・山本大貴（本学学生）

山本順司
（研究部准教授／地球科学）

湯浅万紀子
（研究部准教授／博物館教育学）

博物館で行う映像制作の講義（博物館コミュニケーション特論 II ）

総合博物館正面にあるウェルカムモニターで上映する映像作品を制作する講義を行いました。この講義は、大学院生を対象とした博物館コミュニケーション特論 II「博物館における映像表現（理学院専門科目）」、「映像表現夏の陣（大学院共通科目）（担当：藤田良治、湯浅万紀子）」として開講され、ミュージアムマイスターコースの社会体験型科目として学部生も受講しました。5月のガイダンスでは授業の概要や撮影方法を学び、7月には各自で博物館をテーマとした1分間の映像を企画立案しました。その後、各自が所有するデジタルカメラで動画や静止画を撮影し必要な映像素材を集め、9月に行われた3日間の集中講義では、学内のパソコンを使用して撮影した映像をつないだり、テロップを入れるなど、来館者に魅せる映像を作るための具体的な編集方法を学びました。講義の途中でお互いの映像作品を鑑賞しあう中間発表会の機会を設けてコメントし合い、ウェルカムモニターで上映する作品としての完成度を上げていきました。博物館の企画展示「巨大ワニと恐竜」展の準備風景をドキュメンタリータッチで描いたり、3D制作ソフトを作って仮想空間を巡るなど、多彩な手法を駆使した作品が生まれました。

最終日には実際にウェルカムモニターで試写会を行い、山下俊介先生（京都大学総合博物館）が評価に加わり、学生の作品に一つ一つ丁寧にコメントしていただきました。完成した映像作品は、総合博物館の動画配信サイト「ミュージアムメディアラボ」でご覧いただけるほか、優秀作品は2013年11月の期間限定でウェルカムモニターにて上映しました。

藤田良治
（研究部助教／博物館映像学）

防振装置を身につけて撮影技法を学ぶ

バギーにデジカメを載せて館内を撮影する

情報基盤センターの端末を使い映像編集をする

2013年度前期

ミュージアムマイスターコース社会体験型プロジェクト

「巨大ワニと恐竜の世界」展で展示解説を行う学生

北大の全人教育の一環として展開しているミュージアムマイスターコースの社会体験型科目では、学生が博物館での活動を通じて社会とつながる実践を実施しています。今年度前期のプロジェクトとして、水産科学館土曜サロンの運営と、夏の企画展「巨大ワニと恐竜の世界」展の展示解説を実施しました。

総合博物館分館の水産科学館では、市民向けの公開講演会（水産科学館土曜サロン）を開催しています。6月に開催したサロンでは、プロジェクト参加者が博物館教員の指導の下、開催前に発表者との当日の発表についての打合せ、開催ポスターの作成、報道機関等への開催案内およびポスターの配布、会場の設営を行いました。開催当日は来場者の案内や司会者の補助などを担当し、講演会の後は会場から機材の撤収作業を行いました。参加者は講演会ポスターの作成や報道機関等との連絡など普段の学生生活とは少し違った体験をして、これからの学生生活・社会生活にとって有意義な時間となりました。

「巨大ワニと恐竜の世界」展の展示解説には6名が参加し、企画展担当教員と博物館教育担当教員から指導を受け、古生物を専門に学ぶ学生達の展示解説や関連セミナーに参加して、展示解説に臨みました。未就学児童や小学生の見学も多く、年代も関心も多様な来館者とコミュニケーションして解説する経験を重ねました。展示室で受けた質問とその回答をまとめたファイルは内容・ボリュームとも充実したものになりました。毎回の対応後には博物館教育担当教員にミニレポートを提出し、アドバイスを受け、次回の解説に活かしました。共に対応した当館のボランティアの方々や北海学園大学ボランティア実習生から学ぶことも多い体験となりました。

学生の事後考察を含めたこのプロジェクトの様子は、当館ホームページで紹介しています。
http://www.museum.hokudai.ac.jp/highereducation/storytopic/52/
http://www.museum.hokudai.ac.jp/highereducation/storytopic/53/

河合俊郎
（研究部助教／魚類系統分類学）

湯浅万紀子
（研究部准教授／博物館教育学）

2013年度第1回水産科学館土曜サロンの様子

ミュージアムマイスターの認定

認定式の様子

総合博物館では、平成21年度より「ミュージアムマイスター認定コース」を設定しています。本コースでは、北海道大学が目指す全人教育を全学的に広げる教育プログラムを展開しています。ミュージアムマイスターには、認定科目を取得し、GPAが認定基準以上であること、さらにプレゼンテーションを含む最終面接に合格することが認定条件として求められます。

この認定条件をクリアし、今年11月に長田詩織さん（理学院修士2年）がミュージアムマイスターとして認定されました。現在、21名の学生がミュージアムマイスターに認定されており、様々な取り組みに挑戦しています。今回認定された長田さんと今年3月に認定された太田菜央さん（生命科学院修士2年）は、12月7日に開催された「サイエンスパーク in 北海道大学総合博物館」で司会を務めました。

ミュージアムマイスター認定コース、関連プロジェクトの詳細や活動報告はホームページでもご紹介しております。

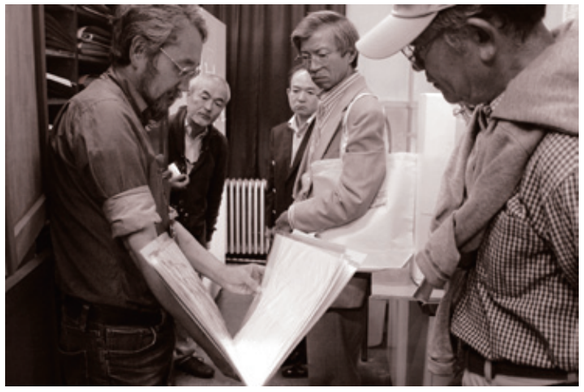
草嶋乃美
（研究支援推進員）

ポプラチェンバロコンサート

1F「知の交流」コーナーでのポプラチェンバロ演奏は毎週木曜日と毎月第2・第4水曜日に行われ、多くの来館者からご好評をいただいてきました。企画コンサートも定期的に開催しており、4月29日(月・祝)に「バロック音楽の楽しみ」、5月19日(日)には「リコーダーとチェンバロによる はるのこんさーと」、8月4日(日)には「チェンバロコンサート　夏の陣」、9月16日(月・祝)は「南欧、古の調べ ～鎌倉時代スペイン、室町時代フランス、戦国時代イタリアの響き～」と題し、当館ボランティアの皆さんが演奏を行いました。また、7月19日(金)に開催されたカルチャーナイト2013のオリジナルプログラムとしてもコンサートを開催しました。毎回、会場から溢れるほどのご参加をいただき、バロック音楽や現代曲などの多彩なプログラムをお楽しみいただいています。

阿部剛史
(研究部講師／海藻系統分類学)

北海道大学ホームカミングデー 2013に展示解説とバックヤードツアーを開催



植物標本庫のバックヤードツアー

展示解説する
ミュージアムクラブ
Mouseionの学生

9月28日、本学同窓生などをキャンパスにお招きして交流を深めていただき、本学の今を知っていただく北海道大学ホームカミングデー2013に、総合博物館では学生による展示解説と、植物標本庫のバックヤードツアーを行いました。

当館が活動を支援して博物館を舞台に活動しているミュージアムクラブMouseionの学生達は、次の4テーマについて解説しました。「氷の海の民のお話」(文学部2年・岸百合子)、「原子から身近な物質へ」(理学部2年・芝池和孝)、「魚類の進化と不思議な形態」(水産学部3年・中原隆史)、「総合博物館の古生物」(理学部3年・太田晶)。卒業生だけでなく、さまざまな年代の市民の方々に熱心にご参加いただき、ご質問をいただいたり、新たな情報を教えていただいたり、解説者だけでなくサポート学生にも温かい励ましのお言葉をいただき、和やかな交流ができました。Mouseionは6月に開催された大学祭でも解説を行うなど、経験を重ねています。2014年2月と3月には1年生が初めての解説に臨むべく準備中です。

また、高橋英樹教授は植物標本庫を案内しました。この標本庫は、札幌農学校2期生の宮部金吾博士から受け継がれているものです。キャビネットから標本を取り出して詳しく解説し、植物の分類方法についてのご質問などに丁寧に説明を行いました。

高橋英樹
(研究部教授／植物体系学)

湯浅万紀子
(研究部准教授／博物館教育学)

「北大エコキャンパス観察会 ― サクシュコトニ川沿いの遺跡・花・虫 ―」

解説を聞く参加者

遺跡保存庭園

1972年6月に開催された「国連人間環境会議」を記念して、日本では6月が「環境月間」に指定されています。「環境月間」の恒例行事として、今年も6月15日(土)に「北大エコキャンパス観察会 ―サクシュコトニ川沿いの遺跡・花・虫―」を開催しました。

午前中は雨模様だったものの、開始時刻の13時半には快晴となり、25℃を超す夏日となりました。高橋教授(植物学)、稲荷資料部研究員(昆虫学)そして筆者の三人がガイドとなり、サクシュコトニ川の流れに沿って北大構内を散策しました。北大構内を流れるサクシュコトニ川周辺では縄文時代晩期後葉(約2600年前)から人々が生活していました。また、現在でもキャンパス北側の遺跡保存庭園では擦文文化期(約1300 ～ 800年前)の人々が利用した竪穴のくぼみを観察することができます。足場が悪く大野池の南の林を抜けるルートは取れませんでしたが、代わりに農学部の花木園周辺を散策し、北大構内で採集された貴重なハチなどの標本を観察しました。ご参加いただいた32名の方々には、北大構内の自然と歴史の豊かさを体感いただけたものと思います。観察会をお手伝いいただいた博物館ボランティアの皆さま、どうもありがとうございました。

江田真毅
(研究部講師／考古学)

カルチャーナイト2013

カルチャーナイトとは、札幌の夏の一夜、文化施設などを夜間開放し、市民の方々に地域の文化を楽しんでいただくイベントです。当館では、2004年度からカルチャーナイトに参加しています。

今年は7月19日(金)に開催され、当館では「チェンバロと星空の夕べ」という企画を実施し、開館時間を夜9時まで延長しました。また、当日は博物館教職員、博物館ボランティア、市民ボランティアなど総勢59名で運営に当たりました。カルチャーナイト オリジナル・プログラムでは、ボランティアによるポプラチェンバロ演奏会、4Dシアター「10 の掛け算の世界　remake of 'Powers of Ten'」「天かける単身赴任」の上演、札幌星仲間による「夏の星座の観望会」が行われました。チェンバロ演奏会は開演後すぐに満席、4Dシアターも整理券がすぐに配布終了となり、人気を集めました。「夏の星座の観望会」は曇り空でしたが、雲の隙間から月や土星を様々な天体望遠鏡で観察することができ、大人から子どもまで多くの方が夏の夜空を楽しみました。

今年のカルチャーナイトも閉館間際まで来館者が絶えず、盛況のうちに終了しました。

草嶋乃美
(研究支援推進員)

左上／チェンバロ演奏会　左下／4Dシアター　右／夏の星座の観望会

2013年度
第1回ボランティア講座＆交流会

2013年度第1回のボランティア講座＆交流会を9月22日に開催しました。今年度は講座を5回シリーズの博物館学講座として位置づけ、湯浅万紀子准教授が担当します。第1回では、博物館の定義や歴史を紹介し、博物館運営に関する近年の動向を解説し、自然史系博物館として日本の国立科学博物館をケース・スタディして同館の組織や運営、館の成立事情、活動展開など多角的に説明しました。2回目以降も理工系博物館や企業博物館、エコミュージアム、大学博物館など各種博物館をケース・スタディしながら、ボランティアの方々に、博物館への関心を広げ、改めて社会における博物館の役割について考える機会としていきます。

湯浅万紀子
（研究部准教授／博物館教育学）

宇宙の4Dシアター

公演開始前のシアタールーム（8/17）

宇宙の4Dシアターボランティアでは、新たな試みとして今夏の大型企画展「巨大ワニと恐竜の世界」との連動に挑みました。8月17日に4回実施した公演のタイトルは「宇宙のかたすみの生命史 ―ワニと恐竜の物語」。宇宙編・恐竜編の二部立てになっており、まず宇宙編で宇宙の大きさや小惑星帯の位置を実感して戴いた後に恐竜編へ移行し、小惑星の衝突によってワニと恐竜の世界がどのような顛末を迎えたのかを解説しました。全回満席で、企画展との連動に対する賛辞も戴きましたので、今回の試みは目的を達成することができたと感じています。

9月21日には、中秋の名月や見頃を迎えつつある木星にちなんで「十五夜とお月さま」「惑星と衛星　まどう星たち」という公演を1回ずつ実施しました。こちらも満席で、多くの皆様をお迎えでき、大変賑やかな公演になりました。

両公演を支えて下さった皆様に心より感謝致します。

山本順司
（研究部准教授／地球科学）

平成25年度 前期記録

平成25年4月から平成25年9月までに行われたセミナー・シンポジウム

バイオミメティクス市民セミナー
「社会に伝えたいバイオミメティクス」
黒川 卓（電子科学研究所 客員教授）
日時：4月6日（土）13：30～15：00
参加者：40名

北大総合博物館土曜市民セミナー
道民カレッジ連携講座
「Serbia -a crossroad／セルビア」
ノヴコヴィチ・ビリャナ
（大学院環境科学院博士課程）
日時：4月13日（土）13：30～15：00
参加者：60名

GCOE土曜市民セミナー
道民カレッジ連携講座
「境界のイメージ ― シコタン・グループの活動について」
谷古宇 尚（大学院文学研究科 教授）
日時：4月20日（土）13：30～15：00
参加者：65名

バイオミメティクス市民セミナー
「ナノテクノロジーが拓くバイオミメティクス」
居城邦治（電子科学研究所 教授）
日時：5月4日（土）13：30～15：00
参加者：40名

北大総合博物館土曜市民セミナー
道民カレッジ連携講座
「豊平川がつくりだした自然景観」
前田寿嗣（札幌市立柏中学校 教頭）
日時：5月11日（土）13：30～15：00
参加者：105名

GCOE土曜市民セミナー
道民カレッジ連携講座
「近くて遠いクリル・カムチャツカ― 地質と鉱物・エネルギー資源の現在と未来」
松枝大治（前館長 資料部研究員）
日時：5月18日（土）13：30～15：00
参加者：60名

日本動物学会北海道支部シンポジウム
「最新技術による動物の進化と歴史の探究」
増田隆一（大学院理学研究院 教授）
表 渓太（大学院理学院 学振特別研究員）
覚張隆史（北里大医学部 学振特別研究員）
江田真毅（研究部 講師）
日時：5月25日（土）13：00～16：00
参加者：80名

地質の日記念展示関連セミナー
「開拓使が造ったサッポロビール」
松澤和則（サッポロビール博物館 館長）
日時：5月26日（日）13：30～15：00
参加者：50名

バイオミメティクス市民セミナー
「ナノインプリント技術による表面構造の模倣とバイオミメティクス」
宮内昭浩（日立研究所 主幹研究員）
日時：6月1日（土）13：30～15：30
参加者：30名

北大総合博物館土曜市民セミナー
道民カレッジ連携講座
「破綻国家の教訓から考える持続的国家：アフリカの社会に適した民主主義とは」
鍋島孝子
（大学院メディア・コミュニケーション研究院 准教授）
日時：6月8日（土）14：30～15：30
参加者：65名

GCOE土曜市民セミナー
道民カレッジ連携講座
「魚の島よ ―「樺太」を問うて― 」
工藤信彦（（社）樺太連盟理事）
日時：6月15日（土）13：30～15：30
参加者：80名

バイオミメティクス市民セミナー
「バイオテンプレートと構造機能材料」
鎌田香織（東京工業大学フロンティア研究機構 バイオテンプレートグループ グループリーダー）
日時：7月6日（土）13：30～15：00
参加者：50名

北大総合博物館土曜市民セミナー
「地域の課題解決と大学研究活動」
小磯修二（公共政策大学院 特任教授）
日時：7月13日（土）13：30～15：30
参加者：60名

GCOE土曜市民セミナー
道民カレッジ連携講座
「香月泰男―あたたかなまなざし」
矢吹俊男（小川原脩記念美術館 学芸員）
日時：7月20日（土）13：30～15：30
参加者：50名

企画展示「巨大ワニと恐竜の世界」関連セミナー
「日本にいたワニたち」
飯島正也（大学院理学院自然史科学専攻 博士課程）
日時：7月28日（日）13：00～14：00
参加者：50名

企画展示「巨大ワニと恐竜の世界」関連セミナー
「白亜紀の北米の竜脚類」
吉田純輝（理学部地球科学科）
日時：8月4日（日）13：00～14：00
参加者：49名

北大総合博物館土曜市民セミナー
道民カレッジ連携講座
「再生可能エネルギーと地域経済の活性化」
吉田文和（大学院経済学研究科 教授）
日時：8月10日（土）13：30～15：00
参加者：70名

企画展示「巨大ワニと恐竜の世界」関連セミナー
「『うんち』からみる古生物」
園部英俊（大学院理学院自然史科学専攻 修士課程）
日時：8月11日（日）13：00～14：00
参加者：50名

企画展示「巨大ワニと恐竜の世界」関連セミナー
「トリと恐竜の世界」
田中公教（大学院理学院自然史科学専攻 修士課程）
日時：8月18日（日）13：00～14：00
参加者：50名

企画展示「巨大ワニと恐竜の世界」関連セミナー
「サハリン島南部上部白亜系から産出したニッポノサウルスの系統位置の再検討」
高崎竜司（大学院理学院自然史科学専攻 修士課程）
日時：8月25日（日）13：00～14：00
参加者：50名

バイオミメティクス市民セミナー
「魚類学者から見たバイオミメティクス」
篠原現人（国立科学博物館 研究主幹）
日時：9月7日（土）13：30～16：40
参加者：40名

北大総合博物館土曜市民セミナー
道民カレッジ連携講座
「サステナブルな企業報告を考える ―環境報告から統合報告へ―」
吉見 宏（大学院経済学研究科 教授）
日時：9月14日（土）13：30～15：30
参加者：25名

企画展示「巨大ワニと恐竜の世界」関連セミナー
「恐竜の最新研究」
小林快次（研究部 准教授）
日時：9月15日（日）13：00～14：00
参加者：120名

GCOE土曜市民セミナー
道民カレッジ連携講座
「宮本常一と歩く国境の島じま」
安渓遊地（山口県立大学 教授）
安渓貴子（山口大学 非常勤講師）
日時：9月21日（土）13：30～15：30
参加者：60名

平成25年4月から平成25年9月までにおこなわれたパラタクソノミスト養成講座

土器パラタクソノミスト養成講座（初級）
小野裕子
日時：5月26日（日）　定員：10名
対象：中学生以上・一般（参加10名）

昆虫マルハナバチ属
パラタクソノミスト養成講座（中級）
稲荷尚記
日時：6月1日（土）～2日（日）　定員：10名
対象：中学生以上・一般（参加者5名）

昆虫パラタクソノミスト養成講座（初級）
大原昌宏・稲荷尚記・神戸 崇
日時：6月29日（土）　定員：10名
対象：中学生以上・一般（参加者13名）

昆虫パラタクソノミスト養成講座（初級）
大原昌宏・稲荷尚記・神戸 崇
日時：7月7日（日）　定員：10名
対象：中学生以上・一般（参加者9名）

化石パラタクソノミスト養成講座（初級）
in 石狩
越前屋 宏紀
日時：7月13日（土）　定員：10名
対象：中学生以上・一般（参加者9名）

化石パラタクソノミスト養成講座（初級）
in 小樽
越前屋 宏紀
日時：7月20日（土）　定員：10名
対象：中学生以上・一般（参加者10名）

岩石パラタクソノミスト養成講座（初級）
在田一則
日時：7月20日（土）～21日（日）　定員：15名
対象：中学生以上・一般（参加者14名）

遺跡出土遺物：
木製品パラタクソノミスト養成講座（初級）
守屋豊人・佐野雄三
日時：7月27日（土）　定員：15名
対象：中学生以上・一般（参加者10名）

化石パラタクソノミスト養成講座（初級）
in 札幌市北方自然教育園
越前屋 宏紀
日時：8月3日（土）　定員：10名
対象：中学生以上・一般（参加者6名）

パラタクソノミスト養成講座
野外地質見学・採集会
松枝大治
日時：8月24日（土）　定員：40名
対象：小学生以上・一般（参加者45名）

海鳥パラタクソノミスト養成講座（中級）
綿貫 豊
日時：8月31日（土）～9月1日（日）
定員：10名
対象：中学生以上・一般（参加者3名）

岩石パラタクソノミスト養成講座（初級）
in 北広島
在田一則・鳥本淳司
日時：8月31日（土）　定員：10名
対象：中学生以上・一般（参加者10名）

遺跡出土遺物：
木製品パラタクソノミスト養成講座（中級）
守屋豊人・佐野雄三・渡邊陽子
日時：8月31日（土）～9月7日（土）
定員：15名
対象：初級修了者（参加者5名）

鉱床パラタクソノミスト養成講座（初級）
松枝大治
日時：9月14日（土）～15日（日）　定員：10名
対象：中学生以上・一般（参加者9名）

岩石パラタクソノミスト養成講座（中級）
在田一則
日時：9月28日（土）～29日（日）　定員：10名
対象：初級修了者（参加8名）

平成25年4月から平成25年9月までの主な出来事

4月16日　小企画「北のすみれ」開催(～ 5/12)
4月23日　2013年地質の日記念企画展示「豊平川と共に ～その恵みと災い～」開催(～ 6/2)
4月29日　ポプラチェンバロコンサート「バロック音楽の楽しみ」開催
4月30日　研究支援推進員 越前屋宏紀さん 退職
5月1日　研究支援推進員 西本結美さん 着任
5月19日　「リコーダーとチェンバロによる はるのこんさーと」開催
5月21日　湖南大学(中国)校務委員会主席一行(6名) 解説
6月1日　GCOE第9期成果展示「境界研究―日本のパイオニアたち」開催(～ 10/27)
6月27日　大連市(中国)校務委員会主任一行(3名) 解説
7月9日　企画展示「フカシギの数え方 The Art of 10^{64} – Understanding Vastness –」開催(～ 4/6)
7月18日　成均館大学(韓国)学長一行(3名) 解説
7月19日　企画展示「巨大ワニと恐竜の世界 – 巨大爬虫類2億3千万年の攻防 –」開催(～ 10/27)
7月19日　カルチャーナイト2013「チェンバロと星空の夕べ」開催
8月4日　「ミュージアムコンサート夏の陣」開催
8月10日　巨大ワニと恐竜の世界 in 紀伊國屋(紀伊國屋書店札幌本店2階ギャラリー) 開催(～ 8/22)
8月15日　タマサート大学(タイ)副学長一行(4名) 解説
8月17日　宇宙の4Dシアター 開催
8月21日　タイ王国副首相一行(14名) 解説
8月30日　文部科学省高等教育局国立大学法人支援課(2名) 解説
9月13日　ザンビア大学副学長・獣医学部長 解説
9月16日　ミュージアムコンサート「南欧、古の調べ ～鎌倉時代スペイン、室町時代フランス、戦国時代イタリアの響き～」開催
9月21日　宇宙の4Dシアター 開催
9月28日～29日　北海道大学ホームカミングデー2013 学生による展示解説実施

入館者数(平成25年4月～平成25年9月)

	入館者数	見学団体数	解説の件数	企画展示(略称)
4月	6,068	8	0	北のすみれ(4/16 ～) 豊平川と共に(4/23 ～) GCOE第8期　知られざるクリル・カムチャツカ
5月	8,475	19	2	北のすみれ(～ 5/12) 豊平川と共に GCOE第8期　知られざるクリル・カムチャツカ(～ 5/26)
6月	11,950	30	6	豊平川と共に(～ 6/2) GCOE第9期　境界研究(6/1 ～)
7月	11,521	19	4	フカシギの数え方(7/9 ～) 巨大ワニと恐竜の世界(7/19 ～) GCOE第9期　境界研究
8月	27,156	21	6	フカシギの数え方 巨大ワニと恐竜の世界 GCOE第9期　境界研究
9月	15,026	37	6	フカシギの数え方 巨大ワニと恐竜の世界 GCOE第9期　境界研究

お礼

以下の方々に当館ボランティアとして学術標本整理作製・展示準備等で協力いただきました。謹んで御礼申し上げます(平成25年4月1日～平成25年9月30日)

(敬称略)

◉植物標本
蝦名順子, 大澤達郎, 大竹口久美子, 大原和広, 桂田泰恵, 加藤典明, 金上由紀, 黒田シヅ, 黒沼美春, 佐藤広行, 鈴木順子, 須田節, 髙橋美智子, 徳原和子, 成田敦史, 兵藤麻里江, 船迫吉江, 星野フサ, 松井　洋, 村上麻季, 吉中弘介, 与那覇モト子

◉菌類標本
石田多香子, 菅 妙子, 齋藤美智子, 外山知子, 丸山満枝, 三浦美恵子, 矢部敦子

◉昆虫標本
青山慎一, 植田俊一, 梅田邦子, 大矢朗子, 川田光政, 喜多尾利枝子, 久万田敏夫, 黒田 哲, 佐藤圀男, 志津木眞理子, 高橋誠一, 問田高宏, 鳥山麻央, 永山 修, 古田未央, 松本侑三, 丸子勝彦, 宮本昌子, 村田真樹子, 村山茂樹, 山本ひとみ

◉考古学
安 翔宇, 石田有莉子, 岩波 連, 大西 凜, 岡 真由美, 鹿島きく美, 亀井和久, 神田いずみ, 木村則子, 久保田 彩, 斉藤理恵子, 佐々木征一, 佐藤美恵, 瀬尾涼太, 田中公教, 長瀬のぞみ, 中野 系, 成田千恵子, 西本結美

◉地学
在田一則, 生越昭裕, 加藤典明, 加藤義典, 加藤利佳, 堺 俊樹, 酒井 実, 嶋野月江, 塚田則生, 寺坂絵里, 寺西辰郎, 野村敏則, 松尾良子, 三嶋 渉, 山崎敏晴, 山本ひとみ, ロバート・クルツ

◉メディア
大石琢也, 河本恵子, 佐藤美恵, 手塚麻子, 中村翠珠, 三嶋 渉

◉化石
朝見寿恵, 安 翔宇, 飯島正也, 池上 森, 今井久益, 大澤千里, 岡野忠雄, 加藤利佳, 金内寿美, 久保田 彩, 栗野里香, 近藤知子, 近藤弘子, 酒井 実, 園部英俊, 高崎竜司, 高橋侑希, 田中公教, 田中嘉寛, 千葉謙太郎, 塚田則生, 手塚麻子, 寺西育代, 寺西辰郎, 内藤美穂子, 中島悠貴, 長瀬のぞみ, 中野 系, 林 純二, 古井 空, 前田大智, 森 淑子, 八巻千晶, 山下暁子, 吉田純輝

◉北大の歴史展示
石川満寿夫, 石黒弘子, 寺西辰郎

◉展示解説
在田一則, 飯島正也, 石田有莉子, 児玉諭, 佐藤綾乃, 園部英俊, 高崎竜司, 武石充, 田中公教, 田中嘉寛, 千葉謙太郎, 塚田則生, 寺西辰郎, 中野 系, 成田敦史, 西川笙子, 沼崎麻子, 濱市宗一, 村上龍子

◉翻訳
遠藤麻衣子, 松田祥子

◉平成遠友夜学校
石川満寿夫, 伊藤ますみ, 柿本恵美, 木村則子, 齋藤美智子, 城下治子, 髙山緋沙子, 竹内元信, 田中敏夫, 中井玉仙, 沼田勇美, 牧野小枝子, 村井容子, 山岸博子

◉4Dシアター
小松麻美, 髙山緋沙子, 田中公教, 塚田則生, 日浦皓一郎, 平田栄夫, 福澄孝博, 古屋恵梨香, 牧野小枝子, 山本大貴

◉ポプラチェンバロ
青木 奏, 浅川広子, 石川惠子, 石田実和, 遠藤麻衣子, 大矢朗子, 長田大夢, 小野敏史, 清水聡子, 新林俊哉, 髙木和恵, 高橋友子, 谷川千佳子, 長竹 新, 中村会子, 新妻美紀, 西出佳代, 浜田宏之, 福士江里, 藤田まりこ, 堀内麻衣, 松田祥子, 雪田理菜子

◉図書
伊藤ますみ, 岡西滋子, 亀井和久, 児玉 諭, 今野成捷, 齋藤美智子, 須藤和子, 髙木和恵, 谷岡みどり, 中井稚佳子, 沼田勇美, 久末進一, 鮒田久意, 星野フサ, 本名百合子, 村上龍子, 安田 正, 山岸博子

◉水産科学館
明石留奈, 渥美圭佑, 池田浩介, 石丸詩織, 岩井卓也, 大友洋平, 大橋慎平, 奥 香奈美, 金子尚史, 川内惇郎, 亢 世華, 菊地 優, 君島裕介, 工藤怜子, 櫻井慎大, 佐々木嘉子, 佐藤広崇, 島田英憲, 杉原菜月, 冨田武照, 館山玲央, 田中大樹, 為近昌美, 栩野秀平, 永野優季, 中原隆史, 荻本啓介, 森田恭司, 堀 睦, 三上大樹, 百田和幸, 山中智之, 和田 茜, Chaiyapo Monruedee

◉企画展示「巨大ワニと恐竜の世界」
青木 奏, 在田一則, 石田多香子, 石田有莉子, 今井久益, 蝦名順子, 岡西滋子, 金内寿美, 児玉 諭, 近藤知子, 酒井 実, 佐藤美恵, 瀬尾涼太, 武石 充, 竹内元信, 田中公教, 塚田則生, 寺西辰郎, 中野 系, 永山 修, 成田千恵子, 新妻美紀, 西川笙子, 濱市宗一, 平田栄夫, 星野フサ, 本名百合子, 村上龍子, 森 淑子, 山岸博子, 山下暁子, 山本ひとみ, 吉田純輝, 石山弘朗, 大内美咲, 武内翔吾, 滑川大樹, 元紺谷太郎, 森 矢真人, 龍崎 峻, 太田 晶, 川内谷亮太, 神田いずみ, 木野瑞萌, 沼崎麻子, 秦 彩乃

[表紙写真]
恐竜(ハドロサウルス科)の全身骨格が見つかる：小林 快次准教授(総合博物館)をリーダーとした調査チームが北海道むかわ町穂別地区にて恐竜の全身骨格の発掘に挑みます。

THE HOKKAIDO UNIVERSITY MUSEUM
北海道大学総合博物館

北海道大学総合博物館ニュース 第28号
編　集：江田真毅・成田佳子
発行日：2013年(平成25年) 12月20日
発行者：津曲敏郎

発行所：北海道大学総合博物館
所在地：060-0810 札幌市北区北10条西8丁目
E-mail：museum-jimu@museum.hokudai.ac.jp
http://www.museum.hokudai.ac.jp/

デザイン・印刷
畠山尚デザイン制作室